

ロータリーと良心の自由

八千代 鈴木 憲輔

現代社会をつくり出したものは科学だと思いません。では、科学とは何でしょうか。それは事実のみを唯一の实在とする認識です。それはまた一切の現象に普遍妥当性を求める精神でもありません。

ポール・ハリスの考えたこと、それはすべての人間に普遍妥当性を求めたことであつたと思ひます。彼はカトリックとプロテスタントの信者がロータリークラブにおいては親友になれた実例を『This Rotarian Age』の中で述べています。彼はあらゆる宗教、人種、国籍等を超えて皆が友人になれる、そう考えてロータリーを創設したのだと思ひます。つまり、彼はロータリーという人間の科学の発見者だつたのです。

一九〇五年にはアインシュタインが特殊相対性理論を発表しているのですが、偶然にも同じ年に、人間と物質両方の世界に本質的な新しい原理が発表されたのは、大面白いいことだと私は思っています。

では、人間という存在の事実、それは何でしょうか。それは皆さんが「自己」と考えておら

れるものだと思います。とすれば、さらにその自己の中心にあつて、真善美を判断し、それを創造するものが「良心」であることも、私どもは認めざるを得ないのではないのでしょうか。ロータリアンが「四つのテスト」において、真実かどうかを判断するのは、この良心にほかならないと思ひます。

職業奉仕においては、その主体はあくまでもあなたです。だれもそれに干渉する権利などありません。もしあつたとしたら、失敗したとき、その人はその責任を負ってくれるでしょう。職業奉仕を手短にいうと、それはあなたがその良心にしたがつて職業を行うことに始まります。良心によるのですから、あなたは誇りが持てます。そして、その結果が世の人のためになつた時に、あなたは職業を通じて奉仕したことになる。これが綱領第二項の最も自然な理解だと私は思っています。

これを可能ならしめる前提として、最も大切なことは、まずあなたの良心の自由が保証されていることだと思ひます。ポール・ハリスは、シカゴクラブに出席した時に、最も心がリラックスするといつていますが、おそらく、彼はそこではだれにも気兼ねすることがなく、最高に良心の自由が保証されていたからではないでしょうか。これがロータリークラブのあり方として、最も大切なことであり、親睦を可能とする根本でもあると私は思っています。